

平成23年度日本音楽知覚認知学会秋季研究発表会 プログラム

大会初日 12/3(土)

セッションNo	講演No	開始時間	終了時間	講演者	タイトル	概要
開会挨拶など		13:00	13:05			
セッション1 座長 安井さん	講演1	13:05	13:30	◎ 亀川 徹, 丸井淳史(東京藝術大学音楽学部)	サラウンド再生における「響きの均質性」に関する物理量の検討	サラウンド再生時における空間の評価語として「響きの均質性」に着目し、関連のある物理量として聴取位置での両耳の相関係数をダミーヘッドの角度を変えて求め、検討をおこなった。
	講演2	13:30	13:55	◎ 鈴木 敬, 佐野毅彦, 原田昇, 大谷俊郎(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科)	身体動作トレーニングにおける音楽的リズムの影響 ーグラウンドホッケーにおけるスティックワークに対する効果ー	本研究ではグラウンドホッケーをプレーする小学生を対象に、メトロノームのリズム音に合わせてホッケーのスティックワークのトレーニングを行い、運動能力向上に対する効果、及び「楽しさ」という心理面への影響について検討した。
	講演3	13:55	14:20	◎ 小西夕貴(龍谷大学大学院理工学研究科), 福本浩大, 三浦雅展(龍谷大学理工学部), 三戸勇氣(一橋大学大学院法学研究科), 川上 央(日本大学芸術学部)	スネアドラム練習曲の感情演奏を対象とした平均モーション法による動作解析	モーションキャプチャシステムを用いて、スネアドラム練習曲の感情演奏における動作の特徴を筆者らが提案する平均モーション法により調査している。対象とする感情は、「優しさ、喜び、悲しみ、恐れ、怒り」の5つの基本感情としている。
休憩1		14:20	14:30	休憩10分		
セッション2 座長 小川先生	講演4	14:30	14:55	◎ 豊島久美子, 福井 一(奈良教育大学大学院教育学研究科)	高齢者の音楽活動(合唱)がステロイド・ホルモンと認知能力に及ぼす影響	健康高齢者を対象に、音楽活動(合唱)がステロイドホルモンや心理状態、認知能力へ及ぼす影響を調べた。その結果、音楽活動(合唱)はステロイドホルモンを調節し、空間認知能力(mental rotations test)を高めることが明らかになった。
	講演5	14:55	15:20	◎ 鈴木茉莉緒(京都大学大学院人間・環境学研究科)((独)産業技術総合研究所), 籠宮隆之((独)産業技術総合研究所), 神崎素樹(京都大学大学院人間・環境学研究科), 中川誠司((独)産業技術総合研究所)	合唱および伴奏音が歌唱の音量調節におよぼす影響	歌唱の非熟達者においては、歌声の音量調節が苦手とされる。そこで、歌唱の非熟達者に合唱や伴奏の種類や音量によって歌声の音量がどのように変化するかを調べた
	講演6	15:20	15:45	大谷圭介, 津崎 実(京都市立芸術大学大学院音楽研究科)	オペラ歌唱における声区変換の音響特性	オペラ歌手が発声する際に大きな問題となる声区転換(パッサジョ; イ)。訓練を受けたさまざまな歌手の声区転換時の声を音声分析し、その音響的特性に迫る。
	講演7	15:45	16:10	福井 一, 豊島久美子, 下田 結(奈良教育大学大学院教育学研究科)	音楽と共感性	音楽が、他者との連帯感を強めヒトの共感性を高めることは、経験的に知られている。本研究では小・中学生を対象に、音楽聴取がヒトの共感性に与える影響を、心理測定尺度を用いて実験した。その結果、音楽聴取は共感性を高めることが明らかになった。
休憩2		16:10	16:30	休憩20分		
特別講演・実演		16:30	17:15	佐渡の鬼太鼓について 講演:NPO法人佐渡芸能伝承機構 理事長 松田祐樹 氏		1.鬼太鼓の5つの型の説明, 2.春日鬼組の取組み, 3.佐渡市豊岡の取組み, 4.佐渡市春日の太鼓の実演, 5.学生による豊岡の鬼太鼓の実演
表彰式		17:15	17:30	表彰式		
懇親会		18:00		*懇親会場:うんめえ日本海 鯛家(新潟駅万代口から徒歩2分)		

*講演者左欄の◎は研究選奨受賞対象者を示す。

平成23年度日本音楽知覚認知学会秋季研究発表会 プログラム

大会2日 12/4(日)

セッションNo	講演No	開始時間	終了時間	講演者	タイトル	概要	
セッション3 座長 松本先生	講演8	9:25	9:50	◎ 小山 奈美, 安達 真由美(北海道大学大学院文学研究科)	特定の音程と方向が旋律の終止感に及ぼす影響 —十二音音列を用いた検討—	本研究では調性感のない旋律において、最後の2音の音程と方向が旋律の終止感に及ぼす影響を検討した。各音程の出現頻度を統制した十二音音列を用いて、3音から成る4つの旋律フレーズを並べ替えるという課題を行った結果、終止として好	
	講演9	9:50	10:15	田部井賢一(日本大学大学院総合科学研究科), 保原伸弘(一橋大学経済研究所), 秋山英三, 石川竜一郎(筑波大学システム情報系)	音楽が経済活動に与える影響 —資産市場実験からの一考察—	音楽は市場取引にどのような影響を及ぼすのだろうか。我々は音楽が市場参加者の感情に影響を与え、音楽の種類によって資産価格バブルが抑制もしくは促進されるという仮説を設定し、資産市場実験を通じてその検証を行った。	
	講演10	10:15	10:40	◎ 橋本 翠, 宮谷 真人(広島大学大学院教育学研究科)	空間課題の遂行はハーモニーの認知に影響を及ぼすのか？	ハーモニーの認知には空間的な処理が関連している可能性が考えられる。そこで本研究では、ハーモニーに特有のERP成分であるERANの惹起と空間課題の遂行との関連性について検	
休憩3		10:40	10:50	休憩10分			
セッション4 座長 田部井さん	講演11	10:50	11:15	◎ 四童子 薫(広島大学大学院教育学研究科)	旋律を記憶する際の音高再生能力が記憶成績に与える影響 —発声を伴うリハーサルと内的なりハーサルとの比較—	被験者の音高再生能力が、音高を記憶する際のリハーサルの効果にどのような影響をおよぼすかについて、音楽経験者と音楽未経験者との成績の比較、発声を伴うリハーサルと内的なりハーサルとの成績の比較を行うことで検討していく。	
	講演12	11:15	11:40	◎ 谷 陽祐, 安達 真由美(北海道大学大学院文学研究科)	背景音が認知課題成績に及ぼす影響 :課題遂行者の性格(内向性・外向性)との交互作用に注目して	BGMと認知課題の研究では、BGMが認知課題の成績を向上させるという結果を報告する研究もあれば、BGMによって認知課題成績が下がる結果もある。本研究では、認知課題を行う実験参加者の性格(内向性・外向性)も考慮した上で、BGMと認知課題成績との間の関係について検討した。	
	講演13	11:40	12:05	◎ 伊藤 範子(北海道大学大学院文学研究科), 松岡 和生(岩手大学人文社会科学部), 安達 真由美(北海道大学大学院文学研究科)	メロディの潜在記憶 —単純接触効果パラダイムと間接再認手続きを用いた検討—	潜在記憶課題として、単純接触効果を測度とする課題と間接再認手続きの2種類を使用し、6音からなるメロディの記憶が長期に渡り保持されるかどうかを検討した。その結果、どちらの課題においても、メロディが潜在記憶として少なくとも1ヶ月は保持されることが示唆された。	
	講演14	12:05	12:30	◎ 河合 正登志, 柳田 益造(同志社大学理工学部)	NIRS信号からの課題関連成分の分離に基づく脳活動の賦活部位の推定 —反復パターンで構成された音列中の異種性認知の場合—	NIRS信号から独立成分分析によって課題関連成分を分離抽出しておきそれと相関の高いNIRS信号を観測信号の中から選り出すことによって課題に関する脳活動の賦活部位を推定する方法を示す。課題は、規則的なパルス音列からパルスが抜け落ちたり多の音に置き代わる、あるいは3拍子の中に突然4拍子が入ってくるなど、規則的な音刺激列の中に規則性を乱す刺激が入ったときの、異種性検知としている。	
閉会挨拶など		12:30	12:35				

*講演者左欄の◎は研究選奨受賞対象者を示す。